

全日本空輸株式会社所属
ボーイング式727-200型 JA8344
に関する航空事故報告書

昭和49年8月30日

航空事故調査委員会議決（空委調第116号）

委員長	岡田 實
委員	諏訪 勝義
委員	山口 真弘
委員	上山 忠夫
委員	八田 桂三

1. 航空事故調査の経過

1.1 航空事故の概要

全日本空輸株式会社所属ボーイング式727-200型JA8344は、昭和49年6月20日臨時便902便として、乗客139名及び乗務員9名が搭乗し、香港国際空港を出発して名古屋空港に向け飛行中、乗客の1名が病死した。

1.2 航空事故調査の経過

6月20日 現場調査

2. 認定した事実及び認定した理由

JA8344は6月20日10時58分（日本時間、以下同じ）香港国際空港を離陸し、高度29,000フィートで名古屋空港に向け正常に飛行中、客室乗務員は12時05分ころ乗客（79才）の気分がすぐれないようだ、付近の乗客より連絡を受けた。その後、当該乗客は呼吸が乱れ、震えがきて意識不明に陥ったので、客室乗務員は12時07分酸素吸入を開始した。機長報告によれば、この旨知らせを受けた機長は、当該乗客の容態が危篤状態であることを確認したので、那覇空港に緊急着陸することを決定した。

022001

12時10分ころ容態が悪化し、脈搏が非常に弱くなったので心臓マッサージを開始した。
12時16分依然意識不明で呼吸は停止し、脈搏もなくなったので人工呼吸を開始した。心臓
マッサージ、人工呼吸は着陸体勢まで継続して、酸素吸入をしながら13時20分那覇空港に
着陸した。13時25分ランプ・インして当該乗客を救急車に移し、沖縄赤十字病院に収容し
た。

なお、当該便に医師は搭乗していなかった。沖縄赤十字病院医師の死亡診断書によれば、死
亡の時刻は12時10分（推定）で、死亡の原因は心筋硬塞であった。

3. 結 論

原 因

本事故は、航空機に搭乗中の乗客が心筋硬塞により死亡したことによるものと認められる。

022002